

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	-1.0	-1.0	-2.0	令和8年度の目標	±0	±0	-3.0	-1.5	+1.5	+5.5	+1.0	+4.0
令和7年度の結果	-3.0	-3.0	-6.0	令和7年度の結果	-5.1	-3.4	+0.4	+4.4	-1.0	+2.9	-1.8	+5.1
令和6年度の結果	-4.0	-4.0	-8.0	令和6年度の結果	-5.4	-5.7	-4.5	-0.8	-1.1	-2.8	-5.8	-4.8
令和5年度の結果	-8.0	-11.0	-19.0	令和5年度の結果								

年度	令和7年度		令和8年度	
内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研究の取り組みもあり、基本的な文章を読み取る力を育てることができた。 ○基礎的な計算の技能についていずれの学年も学力調査等で定着を確認することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語、算数ともに活用型の問題に苦手が見られる。知識技能を使う機会の少なさが影響していると思われる。 ○学力層の二極化がどの学年でも見られ、下位層の引き上げが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を回り、全国平均との差を-2.0ポイント以内に改善する。 ② 言語活動の充実を通して思考力・判断力・表現力を育成し、記述問題の正答率を+5ポイント以上向上させる。 ③ 学習に主体的に取り組む態度を育成し、学習に関する肯定的評価を85%以上(+10ポイント)とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全学級において「めあて」と「振り返り」を位置付けた授業を全校で統一して実施し、学習の見直しをもたせるとともに、言語による振り返り活動を充実させる。 ② 算数は習熟の程度に応じた少人数指導及び補充・発展学習を実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ 各教科において「書く・説明する・話し合う」活動を計画的に位置付け、言語活動の充実を図る。 ④ 学習規律の統一及びICTの効果的な活用により、学習意欲及び表現機会の拡充を図る。 ⑤ スタディワークの分析結果を保護者にフィードバックすることで家庭との連携を図る。 	
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語ではひらがな、かたかなの練習に繰り返し取り組み、確実に習得できるようにした。 ○算数では基本的な加減計算や数の構成について丁寧に指導し、基礎を築いた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では文章を正確に読み取ることや問いに正対した答えを出すことなどに苦手が見られた。 ○算数では時刻の読み取りや図を使って考える問題などが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ひらがなの読み書きの定着率を95%以上とする。 ② 基礎的な計算の正答率を90%以上とする。 ③ 自分の考えを簡単な言葉で表現できる児童を85%以上とする。 ④ 国語科では、文章を正確に読み取り、問いに正対した答えを出せるようにする。 ⑤ 算数科では、時刻の読み取りや図を使って考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 音読と視写を通して言語の基礎となる力を育成する。また、多層指導モデルMIMを活用して読みの基礎を育てる。 ② 具体物を用いた活動を通して数量の理解を深める。 ③ 短い文で自分の考えを書く活動を継続的に行う。学習の約束を指導し、安心して発言できる環境を整える。 ④ 問いの末尾に合わせて答えの末尾をそろえる練習をする。 	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では漢字の習熟に繰り返し取り組み、読み書きできる文字を大きく増やすことができた。 ○算数では九九の学習に管理職も含めて指導にあたり、繰り返し暗唱することで習得させることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では順序に気を付けて話を組み立てることや、相手の話に応じた答え方をすることなどに課題が見られた。 ○算数では問題場面をテブ図に表したり、テブ図から読み取ったりといった問題が苦手であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 計算の正答率を90%以上とする。 ② 国語科では、順序に気を付けて話したり、相手の話に応じた答え方ができる児童を80%以上とする。 ③ 算数科では、問題場面をテブ図を使って表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日記や説明文を書く活動を通して表現力の向上を図る。また、多層指導モデルMIMを活用して読みの基礎を育てる。 ② 順序を表す言葉を使い、ペアやグループで考えを伝え合う活動を設定する。 ③ 計算の反復練習により基礎学力の定着を図る。 ④ 個に応じた支援により、安心して表現できる環境を整える。 ⑤ テブ図が何を表しているかを言葉で説明する活動を取り入れる。 	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語の説明的文章の読み取りの調査では区平均を上回る結果が出ており、学習の成果が見られた。 ○算数では加減計算の技能については概ねの定着が見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では記述、要約など、自ら文章、言葉を扱う分野の問題に苦手が見られた。 ○算数では文章題や図形領域などの読み取り力が十分に育っていない。 	<p>(重点改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 国語の江戸川区平均との差を0以内にする。 ② 算数の江戸川区平均との差を0以内にする。 ③ 根拠を明確にして説明できる児童を80%以上とする。 ④ 国語科で自分の言葉で文章を書けるようにする。 ⑤ 算数科では、文章題で何を問われているのかを読み取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 漢字・語彙・計算の基礎的事項の反復練習を行う。 ② 辞書や資料を活用し、言語を用いて考える学習を充実させる。 ③ 振り返りにおいて、自分の学びを言語化する活動を行う。 ④ 朝学習・ドリルタイムで、補充・発展問題に通じ、個に応じた学びの充実を図る。 ⑤ 文章題の情報を整理、図式化して見える化する。 	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では説明的文章の読み取りの調査では基礎的な読解力の定着が見られた。 ○算数では計算領域の調査問題で良好な成績を収めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では語彙の少なさが読解、記述両面に影響があるほか、無回答の多さが見られる。 ○算数では分数や単位量当たりの大きさの概念的な理解が不十分であることが挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 国語の江戸川区平均との差を-5.1 → -3.0以内に改善する。 ② 算数は江戸川区平均との差を-3.4 → -1.5以内に改善する。 ③ 筋道立てて説明できる児童を80%以上とする。 ④ 国語科では語彙を増やして、自分の考えを表現できるようにする。 ⑤ 算数科では、基礎的な分数の計算ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 段落構成を意識した文章表現の指導を行う。 ② 比較・分類・関係付けを言語化する活動を取り入れる。 ③ 課題解決の過程を言葉で説明する学習を行う。 ④ 朝学習・ドリルタイムで、読解ワークを活用することを通して、補充・発展問題に通じ、個に応じた学びの充実を図る。 ⑤ 読書の時間を増やし、日記や学習の中で自分の考えを表現する時間を設ける。 	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では文章を読む問題で基本的な内容の把握、読み取りができていた。 ○算数では学力調査の知識、技能の成績で全国平均を上回る正答率を残した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では文章と資料を関連付けて読むことや根拠をもとに意見を記述することなどに苦手が見られた。 ○算数では割合や図形、領域が複合する問題で区平均を下回り、課題となっている。 	<p>(強みの維持・伸長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 算数の江戸川区平均+4.4 → +5.5以上まで向上させる。 ② 国語の江戸川区平均+0.4 → +1.5以上まで向上させる。 ③ 根拠を明確にして表現できる児童を85%以上とする。 ④ 様々な領域が複合する問題も正答できる児童を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題解決の過程を言語で整理し説明する活動を行う。 ② 複数の資料を比較し、自分の考えを文章で表現する指導を行う。 ③ 話し合い活動を通して考えを深める機会を設定する。 ④ 朝学習・ドリルタイムで、読解ワークを活用することを通して、補充・発展問題に通じ、個に応じた学びの充実を図る。 ⑤ 文章題の情報を整理、図式化して見える化する。 	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では説明的文章を読む問題での成績は全国平均を上回り、文章の要点を捉える力の育成が見られた。 ○算数の学力調査から基礎、応用問題ともに全国平均を上回る成績を残すことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では複数の条件を関連付けて考える力が課題となっている。無回答率も高く、粘り強さも課題である。 ○算数では割合などの数量関係の問題で苦手が見られた。 	<p>(最重要改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 国語の江戸川区平均との差を-1.0 → +1.0以上まで向上させる。 ② 算数の江戸川区平均との差を+2.9 → +4.0以上まで向上させる。 ③ 論理的に記述できる児童を80%以上とする。 ④ 算数科では、数量関係を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 記述問題に継続的に取り組み、理由や根拠を明確に表現する指導を行う。 ② 既習内容を活用し、自分の考えを説明する学習を行う。 ③ 単元の見直しをもち、学習過程を言語化する活動を行う。 ④ 朝学習・ドリルタイムで、読解ワークを活用することを通して、補充・発展問題に通じ、個に応じた学びの充実を図る。 ⑤ もとにする量と比べられる量を量を見つけられるようにする。 	